

**<日本初>を量産していた長崎！
東京「高島平」と高島秋帆の関係**

**1年ぶりに九州再上陸！地図解説本シリーズの最新刊
『長崎のトリセツ』を4月16日に発売**

～日本一の多島県！海外交易の歴史が育んだ独特の文化を紐解く～

株式会社昭文社ホールディングス（本社：千代田区麹町、代表取締役社長 黒田茂夫、東証コード：9475）とその子会社である株式会社昭文社（本社：千代田区麹町、代表取締役 清水康史、以下昭文社）は、マップエンターテインメント企画本『長崎のトリセツ 地図で読み解く初耳秘話』を、2021年4月16日より発売しますことをお知らせいたします。

地元支持率が高い「トリセツシリーズ」の最新刊となる本書は、1年ぶりの九州再上陸☆島の数日本一の長崎県を取り上げ、地形や地質、交通、歴史、文化と産業など、多彩な魅力を地図で読み解きながら、さまざまな特性を探っていきます。



<表紙>



<左：「吉田初三郎が描いた 長崎の鳥瞰図」右：「写真で見る長崎の風景」>



)) 本書の概要 ((

シリーズ共通の構成を用いて、「絶景グラビア」+「地図で読み解く長崎の大地」「長崎に開かれた多彩な交通網」「長崎で動いた歴史の瞬間」「長崎で生まれた産業や文化」の4章立てとなる本書は、50近くの小テーマから、長崎の素顔に迫ります。地元の方々が親しみやすいご当地ネタはもちろん、全国的に有名な長崎の<あれこれ>も収録している、読み応え充分の一冊です。

)) 本書の注目記事 ((

|| 地形編⇒島の数971！長崎は日本一の多島県／長崎は江戸時代から埋立都市だった？

◆満潮時に海岸線の長さが100m以上ある島の数は、全国で6852島あります。そのうち約14%の971島が、離島の数をもっとも多い県として知られる長崎県にあります。県下市町の中で海岸線をもたないのは1町のみ、その点在する島々の独特の美しい風景を詳しくご紹介します。

◆長崎半島と西彼杵半島の接合部の、小規模な沖積平野にある長崎市。背後に山地や丘陵に迫られ平地が少ない坂の町は、都市拡大のため、江戸時代から絶えず海域の埋め立てが行われてきました。その壮大なまちづくりの歴史を時系列に追っていくと、さまざまな発見がありました。



<「島の数971！長崎は日本一の多島県」ページ例>

【リリースに関するお問合せ】 株式会社 昭文社ホールディングス 広報担当：竹内、張

TEL：03-3556-8124 | FAX：03-3556-8164

昭文社ホールディングスホームページ

<https://www.mapple.co.jp/>

2021年3月29日 株式会社 昭文社ホールディングス
株式会社昭文社

交通網編⇒**進化を遂げた長崎街道の日見峠／松浦鉄道には3つの日本一がある！？**

◆長崎街道は鎖国体制下の日本において、唯一西洋の文化や技術を伝える道として、重要な役割を担いました。その街道随一の難所・日見峠は、動脈として大きな役割を果たしてきたのはもちろんのこと、道路の変遷の見本のような場所ともいえます。徒歩移動から人力車、荷馬車、そして自動車へ、交通手段の変遷に伴い、峠道もその姿を変えてきました。

◆佐賀県の有田駅と長崎県の佐世保駅を結び、北松浦半島をぐるりと一回りするように走る松浦鉄道。地元で親しまれているこのローカル線は、「日本最西端の駅」と「日本一短い駅区間」という2つの日本一を持つことで有名ですが、実はある駅名にもう一つの日本一が隠されていました。



＜「進化を遂げた長崎街道の日見峠」ページ例＞



＜「松浦鉄道には3つの日本一がある！？」ページ例＞

歴史編⇒**高島秋帆と東京「高島平」の関係／紆余曲折の末に成立した今の長崎県**

◆東京板橋区に「高島平」の地名があり、地下鉄の駅名にもなっています。その名前の由来は、大河ドラマ『青天を衝け』にも登場した、長崎出身の西洋砲術家高島秋帆にあるといわれています。天才砲術家が残してくれた偉績を見ながら、高島秋帆と東京「高島平」の関係を探っていきます。

◆明治新政府が版籍奉還後の重要施策として進めたのが、明治4（1871）年の廃藩置県です。はじめは藩がそのまま県になったため、今の長崎県、佐賀県にあたる肥前エリアでは、各藩が県に置き換えられて11県が誕生しました。以降、何度か府県統合が行われ、佐賀県との併合・分離など多難な道をたどった長崎県は、明治16（1883）年やっと現在の形となりました。



＜「高島秋帆と東京「高島平」の関係」ページ例＞



＜「紆余曲折の末に成立した今の長崎県」ページ例＞

産業・文化編⇒**長崎は＜日本初＞を量産していた／鉄川与助が手がけた教会堂建築**

◆古くから海外に開かれた唯一の窓として、外交貿易が盛んだ長崎には、この地を発祥とするモノコトが多数あります。印刷も写真も通信も、人と人とを繋ぐ伝達手段には、長崎を日本初とするものが数多く存在しました。現代にも活きる技術の発展の裏には、本木昌造や上野彦馬ら日本人の努力がありました。

◆異国情緒という言葉で形容される長崎に、かつて「異色の建築家」と評された男がいました。九州の教会堂建築で名を馳せた鉄川与助がその人。彼が手がけ現存している11棟の教会堂のうち、5棟が重要文化財に指定されています。

【リリースに関するお問合せ】 株式会社 昭文社ホールディングス 広報担当：竹内、張

TEL：03-3556-8124 | FAX：03-3556-8164

昭文社ホールディングスホームページ

<https://www.mapple.co.jp/>



<「長崎は<日本初>を量産していた！」ページ例> <「鉄川与助が手がけた教会堂建築」ページ例>

)) 主な特集 ((

|| 絶景グラビア 写真で見る長崎の風景

長崎県の全 21 市町マップ | 長崎県の鉄道路線図

長崎県の主要道路地図 | 長崎県 3D 鳥瞰図

|| Part.1 : 地図で読み解く長崎の大地

|| Part.2 : 長崎に開かれた多彩な交通網

|| Part.3 : 長崎で動いた歴史の瞬間

|| Part.4 : 長崎で生まれた産業や文化

|| Column : データでわかる全 21 市町 vol.1 人口 | データでわかる全 21 市町 vol.2 観光 |

|| データでわかる全 21 市町 vol.3 漁業・農業

|| 吉田初三郎が描いた 長崎の鳥瞰図 | 絵図で見る 江戸時代の長崎 | 長崎にまつわる名曲 | なぜ生まれた？長崎各地の名物グルメ

)) 商品概要 ((

商品名 : 『長崎のトリセツ』

体裁・頁数 : B5 変判、本体 128 頁

発売日 : 2021年4月16日

全国の主要書店で販売

定価 : 1,980 円 (本体 1,800 円 + 税 10%)

出版社 : 株式会社 昭文社

【参考情報】

|| 「トリセツ」シリーズ既刊本の販売状況

2019年9月に『神奈川のトリセツ』を発売以来、これまでに19点刊行[※]いたしました。地元紙に紹介されたほか、各書店のランキングでも上位に進出、Amazon や楽天ブックスでもたびたび品切れとなるなど、既刊の地域にて密かなブームを呼んでいます。

※ : 2021年3月末現在

|| 「トリセツ」シリーズの特徴

- ・各都道府県を1冊丸ごと取り上げ、地図を読み解きながら、地形や地質、歴史、文化、産業など、その特徴や魅力を紹介。
- ・知られていないトリビアをクローズアップし、読み物としてのおもしろさを追求。
- ・ローカル色が強い地域の<もう一面>に着目し、地元の方々に、身近な地域をさらに好きになっていただける内容を提供。

|| コーポレートサイトにて、トリセツシリーズコラムを公開しております。下記よりご覧ください。

『「トリセツ」シリーズのトリセツ！？知っているようで知らない都道府県トリビア』

⇒ <https://www.mapple.co.jp/9576/>

<目次>